

わが家には4匹、診療所には2匹の犬がいます。総勢6匹のうち、わが家の2匹と診療所の2匹は、いず

れも保健所で処分される寸前に、ポランティアの方々がレスキューした種雑の青年犬(約6カ月)です。私の実家で飼っている犬も、阪神大震災の時に保健所から譲っていただいた子犬でしたが、現在も健在で、たいへん賢い番犬として活躍しています。

保健所の活動の中で、犬の確保や処分は、広い意味で公衆衛生の範ちゅうに入ると思います。しかし、医師として直接的なかわりではなく、この分野にはほとんど無関心でした。ところが大学院生の時に阪神大震災が発生し、ポランティア医師として東灘区の小学校に滞在する機会がありました。

ここで保健所に多数の犬猫が捕獲され、少しでも多くの飼い主を探してほしいという情報を得ました。そしていったん、東京に戻ってきた後に、再度兵庫県の保健施設に行き、多くの中から子犬1匹をいただくことになったのです。

これをきっかけに、保健所に集まる犬の存在とその多さと、年間数十万匹の犬と猫が処分されている事実を知り、また処分される犬、血統書のない犬にも、たいへん有能な犬が多く存在することを実感して、少しでもその命を助けたいと思うようになりました。

私は今年2月に朝霧高原に引っ越してきましたが、建築が始まる昨年の9月頃から、自宅用の番犬を探し始めました。特に保健所などでレスキューされた犬で相性が合えばと思い、犬の里親探しに関する情報を集めて、ポランティアの方々と情報を交換し、最終的に、自宅の2匹は栃木県から、診療所の2匹は山梨県から引き受けることになりました。

いずれの場合も、一度は現地に赴き、犬との面談を行います。次にポランティアの方々に、飼育環境を写真や設計図などとともに説明し、場合によっては家族構成なども伝え、最後に誓約書などを書き、譲受までの予防接種や去勢などの費用をお支払いしての引き渡しになります。ポランティアの方々も、犬が再び保健所に持ち込まれることがないよう、慎重に確認するのです。そして、より適した

環境と飼主とのマッチングを行います。

このような経緯があり、現在、自宅には2匹の柴犬と2匹の柴系雑種、診療所には2匹の柴系雑種が仲間入りしたのです。

犬との毎日の

生活では、起床はほぼ日の出と同じ、5時過ぎになります。犬も富士山の肩から空が明るくなり、鳥のさえずりが聞こえるころに活動が始まり、わが家のベランダや離れにつながる渡り廊下を駆け回ります。

朝の軽食には、古いクッキーやパン、キウウリや大根の切れ端などを与えます。自宅の犬は夕食を、診療所の犬は朝食をメインとしています。その食餌のほとんどは、市街地にある同法人病院の残飯になっています。入院患者さま用に栄養管理された食材や残飯などをいただき、犬用に味を薄めて、ドッグフードと混ぜて与えています。ドッグフードのみが好ましいと言われているようですが、実家の経験などから、人間の残飯を調整して与えているのです。

診療所の2匹は、誰が教えたわけでもありませんが、餌が目前に来るまではおとなしくしています。食べ方も上品で、足るを知っている、感じです。今年の朝霧高原エリアはハクビシンが多く、落花生などを食い荒らしているようです。診療所に隣接する畑では被害がほとんどなく、大きな柵の中を走り回っている2匹が活躍していると近所の方から褒美のパンをもらったりしています。

わが家と診療所の犬たちは、この地域に順応し、番犬として、エコ犬として、そして愛玩犬として活躍しています。

隔週水曜日掲載の連載です。次回は10月21日に掲載致します。



Profile: 山本 竜隆

医師・獣医師・統合医療プログラムの構築を目指して活動中。
 聖マリアンナ医科大学 統合医療プログラムを経て、田舎の地域活性型統合医療の構築を目指して活動中。